

特定外来生物クビアカツヤカミキリの分布情報の集約と被害警戒地域図の作成

環境研究部 自然環境グループ

■背景と目的

クビアカツヤカミキリは、中国、朝鮮半島、台湾などに自然分布する、バラ科樹木の害虫です。近年、日本国内に侵入し、サクラや果樹（モモ、スモモ、ウメなど）に甚大な被害を与えています。本種は、2018年1月には外来生物法における特定外来生物※に指定されたことで、飼育、保管、運搬といった取扱いが規制されました。また、各主体が相互に連携・協力し、必要に応じて、防除を行うこととされています。

大阪府では2015年に本種が初めて確認されて以降、分布の拡大が続いています。外来種の防除対策では、早期発見・早期対策が重要です。当所では、大阪府と協力し、クビアカツヤカミキリの最新の詳細な分布情報の公開に取り組んでいます。

■事業の内容

当所による現地調査、市民からの情報提供、市町村に対するアンケート調査（2020年～）等においてフラスが確認された地点を3次メッシュ(約1 km×約1 km)単位に集約したクビアカツヤカミキリ被害分布図、分布の推移をもとに既知の被害地域の周辺3 kmを被害警戒地域（本種がいる可能性が高い地域）とした図を作成し、大阪府HPで公表しています。

クビアカツヤカミキリ

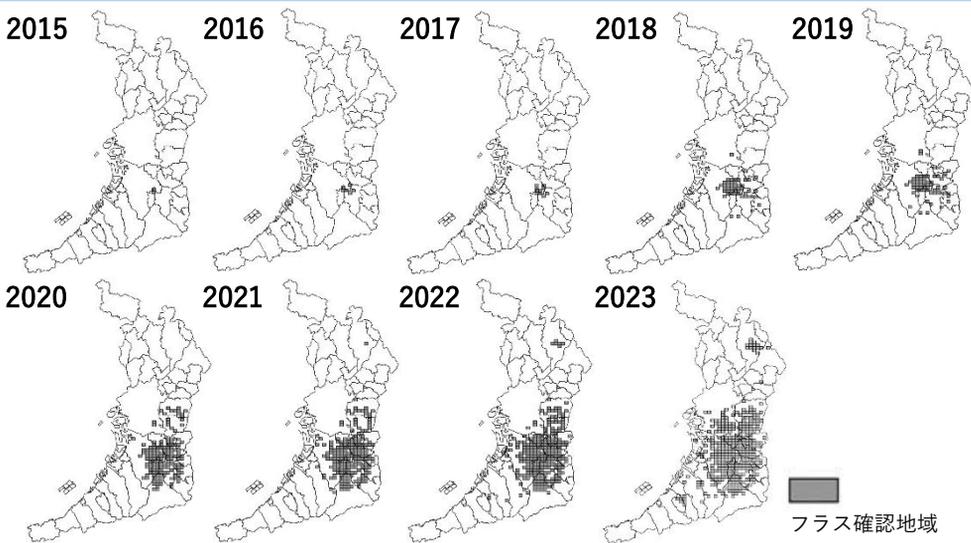
- 学名：*Aromia Bungii*
- 分類：コウチュウ目カミキリムシ科
- 体長：2～4cm（成虫）
- 特定外来生物※：2018年1月15日指定
- 幼虫が樹木の内部を食べて木を衰弱・枯死させる



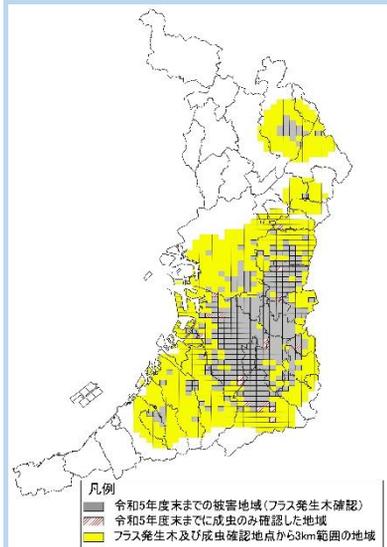
寄生木の根元にはフラス（木クズやフンの混合物）が堆積

※：外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの

クビアカツヤカミキリ被害分布図



被害警戒地域(2024年度版)



■今後の方向性

当所では、本種の生態、フラスの見分け方、防除方法をまとめた「クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書」を作成し、HPで公表しています（QRコード）。今後は、分布図や手引書を活用しながら、府民の皆様が各地域の現状に応じた対策を講じられるよう支援していきます。

